

わかりにくい解説である。これは、恐らく、「前半戦の終り頃（即ち、オールスター戦の直前）には疲れが出る」という意味であろう。

本年8月4日（金）の朝日新聞に、「新幹線で巡查刺す。ノイローゼの大学浪人」とあつた。はて、大学浪人とは？さきを読んでみよう。「無職〇〇は、昨年高校を卒業、2度大学受験に失敗し、東京で浪人中」。なあんだ、ただの浪人じゃあないか。「大学は出たけれど……」という浪人かと思つた。

「言葉，コトバ，ことば」

松 川 弘

試験も終りほつとしているときに、三年生の先輩者氏からのありがたい原稿の催促状が武田山のふもとにあるわが家にまいこみ、つれづれなるままにペンをとり、かく始末です。

以下は私の学校への行き帰りのバスの中や家の附近で体験したことです。

先日、図書館からの帰りバスに乗ろうと思い、バスセンターの前に行つて面白い看板をみました。というのはある保険会社の宣伝でしたが、内容は「安心をつかみましよう。」というものでした。これをみて我輩しばし考えてみるに末だ『安心』というものをみたこともなければ、食べたこともないので少々面くらつた感もありましたが、そこはそれ、我輩の〇〇なる頭脳をもつてしてわかりはしたものの、もう少し配慮していただきたいものである。（〇〇には好きな文字をいれていただきたいが、誤解があつてはこまるので漢字で二字、カナで㊦ではじまり㊧で終るものであるからまちがいのないように願いたい。）

僕が、愛犬を散歩させていた時、ふと電信柱に目をやるとあるカメラ店の宣伝文句に、「証明免許撮影」とかいてあつた。免許証が写真をとるだけでできるものなら金もかからず大変便利なのではないだろうか。わざわざ観音の公安委員会にでかけていかなくてもできるなんてこのうえないことではないだろうか。これも「証明、免許用の写真撮影」とかえていただきたいものである。

次は交通標識にかかれていたことであるが、知る人のみぞ知つている様に、祇園にはフマキラーという殺虫薬の工場がありますが、その門を通りすぎる際に大変面白いものをみました。交通標識に「除行」とかいてあつたので、考えてみるにつまり「車両進入禁止」のことではないかものすごい誤解を招くところでした。ちよつとした不注意から「除行」と「徐行」をまちが

えたのでしようがもう少し考えてから標識をたててほしいものだ。

次の例は古浦先生が昨年「広大言語」にかかれたことからヒントを得たものです。

プロ野球昭和42年10月11日の近鉄―南海の第25回戦の新聞のみだしに「鈴木、よろめきの20勝」とかいてあるのをみて、我輩思うに鈴木（近鉄）はどこか身体の調子が悪くて熱でもあるためフラフラしながら投げたのか、あるいはその他の色々な事情のためよろめきながら投げたかの様に思われても仕様がなのではないだろうか。ジャーナリストたるものこの様な誤解をまねくようなことばはさけてせめて『鈴木、かろうじて20勝をえる』位にかいてほしいものである。

先日10月15日に教育テレビで放送された八幡製鉄対ヤンマーディーゼルのサッカー試合第2回戦をみていたとき、解説者はオリンピック日本代表チームのコーチである岡野さんでしたが、彼が八幡の渡辺選手のドリブルをみて「渡辺は足がありますからね」といつたのをきいて僕も少々サッカーをやるのでその意味はわかりましたが、これを何も知らない人がきいたら渡辺選手にだけ足があつて他の選手、宮本や釜本や吉村には足がないのかと思われても仕様がなことだろう。岡野コーチともあろう人が、いくらサッカーが全国的に普及したとはいえ、解説には細心の注意を払ってもらいたいものだ。

最後に試験も終りほつとして中国放送の「木島則夫モーニングショー」をみていたとき、たしかあれは和歌山県のある無医村の人達を招いてその町の事情をきいていたときでしたが、一婦人が「……は憲法違犯を犯しているから……」といわれたのときいて我輩思うに、このおばさん「憲法違犯」がいたいのか、それとも「憲法は犯されていない」というのか少々めんどくりましたが、よく話をきいているとどうやら「憲法が犯されている」というのをいいたいようであつた。初めてテレビのスタジオにでてあがるのはわかるけれども、落ちついてことばを正しく話してもらいたかつたと思うしだいである。

終り オワリ おわり